

科目分類	一般教養科目 人間と社会			開講時期	1年	前期
科目名	言語と表現					
選択/必修	選択	単位数(時間数)	2単位	30時間	授業形態	講義
担当教員	木村 小夜					
メールアドレス	sayo@fpu.ac.jp		オフィスアワー	授業の前後		

授業目的	<p>1. 作家達の様々な日記や手紙形式の作品を読み、それぞれの叙述の特性を通して、人間の描かれ方を理解する。</p> <p>2. 言葉は、いわゆる〈情報伝達の手段〉に終始するわけではなく、人の心のありかたにたえず連動して発現される「なまもの」であることを知る。</p> <p>3. 読み取った内容や与えられた課題に即し、自分の考えが他の人に理解されるよう、適切に言葉で説明・表現する。</p>
授業概要	<p>私達はなぜ自分について書き、語ろうとするのだろうか。日記や手紙は文学の源流の一つでもある。代表的な作家達の著述を通して、こうした文章の特性・多面性について理解を深める。なお、授業に関わる課題に記述回答してもらうことで多様な読解の可能性を紹介し、これを共有しながら講義を進める。</p>
授業計画	<p>第1回 はじめに ―自分について「書く」「語る」ということ―</p> <p>第2～3回 日記と文学(1) ―「仰臥漫録」「二十歳の原点」を読む―</p> <p>第4～5回 日記と文学(2) ―「死の棘」「ローマ字日記」を読む―</p> <p>第6～7回 日記と文学(3) ―樋口一葉の日記と人生―</p> <p>第8～9回 日記と文学(4) ―樋口一葉の日記と文学―</p> <p>第10～11回 装置としての手紙(1) ―作家達の手紙・手紙の特性―</p> <p>第12～13回 装置としての手紙(2) ―太宰作品における手紙の諸相―</p> <p>第14～15回 装置としての手紙(3)</p> <p>―前回の続き・再度、手紙の特質について・全体のまとめ―</p>
教材 参考文献等	資料を配付する。
成績評価 基準・方法	<p>期末試験 50%、小課題 50%</p> <p>試験は記述式。また、毎回授業の終わりに 200 字程度の課題提出を求める。</p>
履修要件	特になし
留意事項 その他	事前に指定された作品を熟読し、必ず予習した上で受講すること。